

# 目 次

1 主題について	1
2 授業研究	3
【授業研究 1（小学校）】	3
小学校第3学年「元気いっぱいストレンジャー」における論理的思考力をはぐくむことを踏まえた学習指導	
- 動き方や課題解決の方法を身に付け，気付いたことを話し合う活動を通して -	
【授業研究 2（小学校）】	8
小学校第5学年「ダンス・マイワールド」における論理的思考力をはぐくむことを踏まえた学習指導	
- 表現の仕方を身に付け，自分のイメージを広げながら表現を再構成していく活動を通して -	
【授業研究 3（中学校）】	16
中学校第1学年「自分の力に合った50mハードルのコースを作ろう」における論理的思考力をはぐくむことを踏まえた学習指導	
- 自分の力を知り，確かめ合いながら課題解決していく場の工夫を通して -	
【授業研究 4（中学校）】	21
中学校第2学年「個人の技能を高め，チームプレイに生かそう」における論理的思考力をはぐくむことを踏まえた学習指導	
- 友達からのアドバイスを基に，個人的技能を高め合い，作戦を考える活動を通して -	
3 研究のまとめ	27

## 体育・保健体育科研究主題

論理的思考力をはぐくむことを踏まえた体育・保健体育科学習指導

- 筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動を通して -

### 1 主題について

#### (1) 研究主題を設定するにあたって

平成20年1月の中央教育審議会答申 体育、保健体育の改善の基本方針の中で、

体育については、体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむことにも資する ( \_\_\_\_ は加筆)

と示されている。

体育・保健体育科は、習得した基礎的な知識及び技能をもとに体験を通して、工夫しながら、「運動に親しむ資質や能力」、「健康の保持増進のための実践力」、「体力」を高めていく教科である。つまり自分の力を知り、その力を高めるための手立てを知り、試しながら高めていくことが重要である。そのためには、各運動のもつ特性を十分に理解し、「動き方、動きの構造やコツ」などを見付け、自分に適しているかどうかを実際の活動を通して理解し、より確実なものにすることが重要であると考ええる。

また、体育・保健体育科の特性から、集団活動、身体表現の中で他者とかかわりながら、自分の力を知るとともに、「教え合う」、「認め合う」、「励まし合う」ことで、自分の学習に自信をもち、学習意欲の向上にもつなげると考える。これらのことを踏まえ、児童生徒が自らの課題を解決しながら、運動に取り組めるようにすることが重要である。

このように、「筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動」を学習の中に取り入れることで、論理的思考力をはぐくむことにつながると考える。

#### (2) 教師の課題提示について

児童生徒が自らの課題を解決しながら、運動に取り組むようにするには、教師と児童生徒との言葉のやりとりの中で、具体的な課題を提示することが大切である。

国立大学法人信州大学准教授の岩田靖氏は、教授行為として、「教材（課題）についての教師の『説明』『指示』の言葉は当然ながら、わかりやすく、具体的であることが求められる。また、『演示』『発問』は教材の要点を確認させていくとともに、学習者の意識を適確に方向づけることに向けられる必要がある。さらに、課題に取り組んでいる学習者の成果（できばえ）にかかわって、『賞賛』、『フィードバック』、『助言』の言葉を投げかけていくことは、学習者と教材の関係をより濃密なものにしていくための教師の働きかけである。」と述べている。

このことから、より分かりやすく具体性をもつ課題提示をすることで、児童生徒は自分の学習課題をより身近なものとしてとらえ、学習に取り組むことができると考える。また、振り返る場面での教師の言葉の投げかけが、論理的思考力をはぐくむことにつながると考える。

(3) 話し合う活動を通して論理的思考力をはぐくむことについて

発達の段階や活動場面に応じて、思考・判断を促す課題を提示することで「体の動かし方、運動やスポーツの行い方に関する知識」を基に、実際に体を動かすことで、運動やスポーツには、さまざまな動きがあり、結果につながる合理的な「動き方、動きの構造やコツ」などがあることに気付かせる。また、「課題を設定する」、「解決の方法を見付ける」、「試行錯誤しながら反復して課題を解決する」、「新たな課題を設定する」などの場面において、「課題解決学習の方法に関する知識」から、筋道を立てて練習や作戦を考え、工夫しながら取り組ませる。これらの学習の中に、話し合う活動を取り入れることで、論理的思考力がはぐくまれていくと考える。

(4) 主題に迫る手立て

以上の基本的な考え方を基に、研究主題「論理的思考力をはぐくむことを踏まえた体育・保健体育科学習指導」を設定し、体育・保健体育科における研究主題につながる授業構築の方向性を踏まえ、次のような手立てを用い、小学校2校、中学校2校で授業研究を行った。

- |  |
|--|
| ア 課題解決の方法を身に付け、試しながら技能を高めていく活動<br>イ 他者とかかわる中で課題に気付き、工夫しながら解決していく活動 |
|--|

【授業研究1（小学校）】

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・動き方や課題解決の方法を身に付けさせるための工夫</li><li>・気付いたことを発表し合う活動</li></ul> |
|---|

【授業研究2（小学校）】

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・表現の仕方を身に付け、自分のイメージを広げるための工夫</li><li>・表現を再構成していく活動</li></ul> |
|--|

【授業研究3（中学校）】

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・思考・判断を促す課題提示</li><li>・課題解決していく場の工夫</li></ul> |
|---|

【授業研究4（中学校）】

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・思考・判断を促す課題提示</li><li>・試しながら高めていく活動の場の工夫</li></ul> |
|--|

## 2 授業研究

### 【授業研究1（小学校）】

小学校第3学年「元気いっぱいストレンジャー」における論理的思考力をはぐくむことを踏まえた学習指導

- 動き方や課題解決の方法を身に付け、気付いたことを話し合う活動を通して -

1 領域及び内容 「A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動（ア）（エ）」

2 単元名 「元気いっぱいストレンジャー」

3 単元設定の理由

本単元の多様な動きをつくる運動は、様々な体の基本的な動きを培っていくものである。ここでは、低学年で体験した「体のバランスや移動」、「用具の操作」などの遊びの中から味わった楽しさを基に、「力試しの運動」を加え、四つの運動を組み合わせている。

中学年児童は、心に自我が芽生える時期である。一般的に身体面では、低学年以上に活発に体を動かすようになり、人間関係においても、友達とのつながりを重要視し、集団で行動するようになる。また、自分の考えをもち、相手に伝えたり、行動したりできるようになり、好奇心から多くの知識を得ようとする時期でもある。

そこで、児童にとって興味・関心を高めるような教材を設定し、「動き方」、「動きの構造やコツ」について思考・判断しながら動きを習得していく。さらに運動を通して習得した知識を基に「動き方」、「動きの構造やコツ」について、気付いたことを話し合う活動を通して、論理的思考力をはぐくめるとともに、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」が図られると考え、本主題を設定した。

4 主題に迫る具体の手立て

(1) 動き方や課題解決の方法を身に付けさせるための工夫

ア 身体感覚づくりを目的とした時間の設定

低学年で学習した内容をだれもができる動きとして身に付けさせ、繰り返しながら、動き方のコツをつかませるために、授業の始めに毎時間行う。

イ 思考・判断を促す課題提示の工夫

自分の動きのできばえや人の動きから分かったことについて、振り返る発問を繰り返し、思考・判断を促す手立てとする。

ウ 学習カードの工夫

自分に合った運動の行い方を選んで学習が進められるように、学びの道筋を示した学習カードを作成する。

エ イメージをつくる・表現するための工夫

児童が自分の動きのイメージをつかんだり、分かりやすく相手に伝えたりする手立てとして、動きの全体的なイメージや運動のコツをつかむオノマトペ（擬声語、擬態語）を取り入れる。教師が具体的に例示して活用方法をつかませる。

(2) 気付いたことを発表し合う活動

ア 思考・判断を促す課題提示の工夫

他者の動きからの気付きや相手に上手に伝える話し方などについて理解させるために、発問の工夫をする。

イ 学習ボード（アドバイスボード）の活用

既習の動きを言葉や写真で随時記録して、掲示物として添付していくようにする。さらにそれをアドバイスボードとして活用する。児童が見付けた運動のコツを自由に言葉や絵で付せんに書き込ませることで交流がしやすくする。

5 授業の実践

(1) 目標

進んで運動に取り組み、きまりを守って友達と一緒に運動したり、場や用具の安全に気を付けてりして運動しようとする。 (関心・意欲・態度)

友達のよい動きを見付け、自分の運動に取り入れたり、楽しく運動できる行い方を選んだりすることができるようにする。 (思考・判断)

バランスをとりながら移動したり、力を試す動きができたり、さらにそれらを組み合わせた運動ができたりするようにする。 (技能)

(2) 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
学具 習体 活の 動評 に価 お規 け準 る	いろいろな運動に進んで取り組もうとする。根気強く、繰り返し順番やきまりを守ろうとする。進んで友達と互いに励まし合ったり、動きを見合ったりしようとする。 用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとする。 用具やスペースなどの身の回りの安全に、常に気を付けようとする。	運動の行い方を理解している。観察した情報から多様な動きをつくる運動を選んでいる。 友達のよい動きを見付けて自分の運動に取り入れている。 観察した情報からカードなどで学習を振り返っている。	体のバランスをとる運動（姿勢を変えて回る、寝ころぶ、起きるなど）や体を移動する運動（速さ・リズム・方向を変えてはつ、歩く、走る、跳ぶなど）、用具を操作する運動（つかむ、持つ、回すなど）、力試しの運動（押す、引く、運ぶ、支えるなど）が安定してできる。 相手の動きに応じて、二つ以上の動きを同時や連続してなめらかに行うことができる。

は十分満足できる状況

(3) 指導と評価計画（6時間扱い）（男子17人，女子20人，計37人）

	学習のねらい・活動	評価計画		
		関	思	技
はじめ × 1	<p>運動の特性や学習のねらい，計画，内容を理解する。 多様な動きをつくる運動の学習準備をする。</p> <p>1 学習のねらいと道筋を理解し，学習の進め方について知る。 ・単元の学習の流れや1時間の学習の進め方 ・学習カードの使い方 ・グルーピング，役割分担の確認 ・課題解決や協力の仕方</p> <p>2 体ほぐしの運動をする。 3 動きづくりをする。 4 学習を振り返る。</p>	}	}	}
	<p>ねらい 運動を楽しみながら，多様な動きの感覚を味わう。</p> <p>1 学習のねらいを確認する。</p>			

なか 1 x 2	2 体ほぐしの運動をする。 3 動きをつくる。(3人組)							
	<table border="1"> <tr> <td>&lt;なか1-1&gt; バランスコース</td> <td>&lt;なか1-2&gt; ストロングコース</td> </tr> <tr> <td>バランスをとりながら移動する運動をする。 A ゴロリンコース B ピョンピョンコース</td> <td>体を支えながら移動する運動をする。 C 動物の動きコース D 力比べコース</td> </tr> </table>	<なか1-1> バランスコース	<なか1-2> ストロングコース	バランスをとりながら移動する運動をする。 A ゴロリンコース B ピョンピョンコース	体を支えながら移動する運動をする。 C 動物の動きコース D 力比べコース			
<なか1-1> バランスコース	<なか1-2> ストロングコース							
バランスをとりながら移動する運動をする。 A ゴロリンコース B ピョンピョンコース	体を支えながら移動する運動をする。 C 動物の動きコース D 力比べコース							
	4 友達と動きを見せ合う。 5 学習を振り返る。(学習カードに記入・自分のめあての確認) 6 整理運動・片付けをする。							
なか 2 x 2	ねらい 自分の課題をもって運動に取り組み、選んだコースの運動を楽しむ。							
	1 学習のねらいを確認する。(3人組で各自のめあてを確認する。) 2 場の確認をし、体ほぐしを取り入れながら準備運動をする。 3 グループで選んだコースの運動を行う。(AまたはB) 4 運動のコツについて話し合い、全体の場で交流する。 5 グループで選んだコースの運動を行う。(CまたはD) 6 運動のコツについて話し合い、全体の場で交流する。 7 学習を振り返る。(学習カードに記入・自分のめあての確認) 8 整理運動・片付けをする。							
ま と め x 1	ねらい 自分たちで考えた運動を楽しむ。							
	1 学習のねらいを確認する。(自分たちで考えた運動を行う。) 2 場の確認をし、体ほぐしを取り入れながら準備運動をする。 3 自分たちで考えた運動を楽しむ。 ・工夫した運動 人数を増やしての運動 4 工夫した運動を紹介する。 5 学習を振り返る。(学習カードに記入・自分のめあての確認) 6 整理運動・片付けをする。							

(4) 本時の学習

ア 本時のねらい

既習の動きをもとに練習方法のコツを考えたり、見付けたりしている。 (思考・判断)

基本的な動きを身に付け、バランスを取りながら体を滑らかに移動したり力を試す動きができる。 (技能)

イ 展開(5/6)

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
は じ め 5 分	1 場づくりや安全確認をして、整列、あいさつをする。 2 本時のねらいをつかむ。	・身じたくの確認と健康観察を行う。	
	<table border="1"> <tr> <td>友達のよい動きを見付けながら、なめらかな動きを身に付けよう。</td> </tr> </table>	友達のよい動きを見付けながら、なめらかな動きを身に付けよう。	
友達のよい動きを見付けながら、なめらかな動きを身に付けよう。			
	3 体ほぐしを取り入れた準備運動をする。 ・ストレッチング ・セブンジャンプス	・運動する場所を確認させ、安全の確保と学習のスムーズな展開を意識付ける。 ・楽しみながら体が温められるように体ほぐしの運動を取り入れる。	
な か 30 分	4 4人組で選んだ運動を行う。 (1) 一つ目のコースの運動に挑戦する。 ・めあてカードで自分とグループの友達のめあてを確認する。 <バランスコース> A ゴロリンコース	・前時までの学習を振り返り、一人一人が具体的なめあてをもって取り組めるようにめあてカードで確認する。 ・2コース4か所の運動の場で自分のめあてに合った運動を選んで取り組めるように、学びの筋道を記入したカードをそれ	

	<p>B ピョンピョンコース          &lt;ストロングコース&gt;          C 動物の動きコース          D 力比べコース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人組になり、お互いに動きを見合いコツを見付け、アドバイスされたことを試してみる。</li> </ul> <p>(2) 運動のコツを紹介し、交流する。</p> <p>(3) 二つ目のコースの運動に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてカードで自分とグループの友達のめあてを確認する。</li> <li>・4人組になり、お互いに動きを見合いコツを見付け、アドバイスされたことを試してみる。</li> </ul>	<p>ぞれの場に用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を行う順番やルールを確認したり、ぶつからないスペースを確認したりするなど安全面に十分配慮する。</li> <li>・友達とかかわり合えるように、友達に自分の動きを判定してもらう機会を設けたり、友達の動きを見るように声をかけたりする。</li> <li>・友達の動きのよさを見付けることができるように随時よい動きを賞賛する。</li> <li>・全体の場で交流がしやすいように、同じコースの運動グループで話し合い、友達のよい動きをアドバイスボードに書き込むように助言する。</li> <li>・どのような体の使い方がよいかの発問をしながら運動のコツを共有化させ、後半の活動に意欲をもたせる。</li> <li>・自分のめあてに対してしっかり運動に取り組んでいる子どもを賞賛する。</li> </ul>	<p>&lt;関心・意欲・態度 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と互いに励まし合ったり、見合ったりしようとする。 (学習時の観察)</li> </ul> <p>&lt;思考・判断 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のよい動きを見付け、自分の運動に取り入れている。(学習時の観察・学習カード)</li> </ul> <p>&lt;運動の技能 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の動きに応じて、二つ以上の動きを同時や連続して<u>なめらかに</u>行うことができる。 (学習時の観察)</li> </ul>
ま と め 10 分	<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふり返りカード」に本時の反省を記録する。</li> <li>・全体で学習を振り返り、次時の予告をする</li> </ul> <p>6 整理運動・片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふり返りカード」に、本時の振り返りを記入し、全体の場で発表し合い、みんなが友達のがんばりを賞賛する。</li> <li>・どうしたらできるようになるのかをみんなで考え、動きのイメージを共有化させる。</li> <li>・あらかじめ役割分担をしておき、短時間で片付けができるようにする。</li> </ul>	

は努力を要する状況にある児童への手立て

## 6 授業の結果と考察

### (1) 動き方や課題解決の方法を身に付させるための工夫

#### ア 身体感覚づくりを目的とした時間の設定について

毎時間の授業の初めに、低学年で経験した身体感覚づくりの運動として「動物の動き」や「跳ぶ跳ねるなどの運動」を行った。この活動を通して、「逆さ感覚」や前傾姿勢になる「前のめり感覚」、両腕で身体を支える「腕支持力」、全力を出して動く中で手と足をバランスよく動かす「手足の協応動作」などの基礎的・基本的な動き方が身に付いた。「もっと工夫して難しい動きをやってみたい。」という学習意欲の高まりが感じられるつぶやきがあり、体験を通して動き方のコツが分かり、だれもができる動きが身に付いたと考えられる。

#### イ 思考・判断を促す課題提示の工夫について

アの活動のあとに、全員で集まった際、比較的動きのよかった数名に「上手にできたけど、どこを気にしてやるといいのかな。」、「上手だったのはだれかな。何でそう言えるか説明して。」と発問をした。児童は、「遠くまで跳ぶには、腕を大きく振って思いっきり跳べばいいよ。」、「ちゃんは跳ぶときに上を向いてるよ。」などの発言があった。このことから動きについての特徴やコツを見付ける方法の一つとして比較することに気付き、自分なりの考えがもてた。また、5時間目の終わりに「歩く時と走る時では、足や腕の動き方の違いは何か。友達に聞かれた時にその理由も言えるかな。」と発問してみた。児童からは、「歩く時と走る時では、足とか腕のスピードがちがうよ。だから速く走る時は、思いっきり腕とか足とか動かすといいよ。」、「ぼくは足を速く動かすように腕を思いっきり振るようにするよ。だってサッカー選手とか見て

ると、ドリブルの時にすごく速く腕を振ってるよ。」などの発表があった。このことから「運動にはさまざまな動きがあること」、「運動にはよりよい結果につながる合理的な技術があること」、「分析するには自分の動きと他者の動きを比較すること」などの概念的知識が身に付いたことが分かった。

ウ 学習カードの工夫について

児童の学習カードには、学びの足跡を視覚的につかめる工夫をした。このことにより、1時間ごとに自分の課題がもてた。また、動きに難易度を設定したことにより、身に付いた技能を活用しながら、難易度の高い動きに挑戦する児童が授業の後半から増えてきた。この様子から、自分に合った運動の行い方を選んで学習が進められたと考えられる。

エ イメージをつくる・表現するための工夫について

自分の考え（アドバイス）を友達に分かりやすく伝えたり、学習カードやアドバイスボードに書く時にも活用していたことから、「オノマトペ（擬声語、擬態語）」を取り入れたことにより、動きの全体的なイメージや運動のコツをつかむことができた。

(2) 気付いたことを発表し合う活動

ア 思考・判断を促す課題提示の工夫について

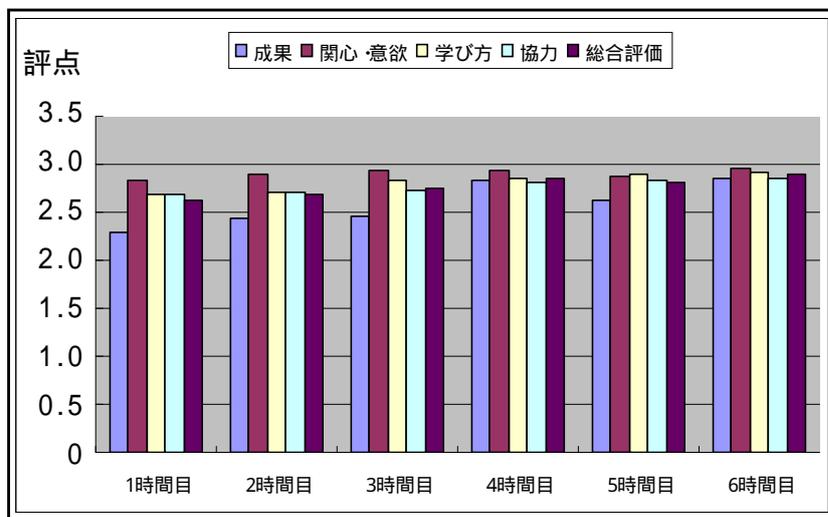
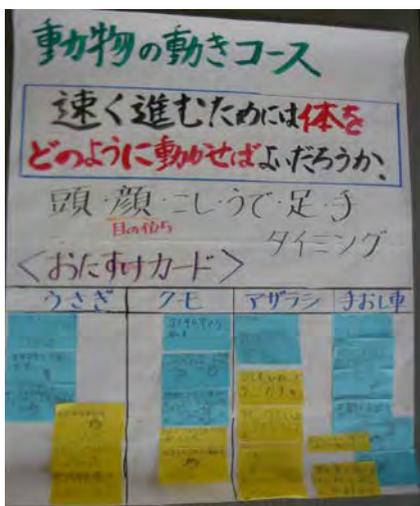
本時で学んだことや気付いたことを「認める場」、「認め合える場」として、毎時間のまとめの時間を設定し、本時の授業で分かったことやできるようになったことについて自由に発表させた。ここで教師は、「何で」、「どうして」、「どうすれば」、「どんなことが分かりやすく説明して」など論理的思考を促す発問をした。このことにより、他者の動きから新しい動きのポイントに気付くことができた。また、相手に分かりやすく伝える方法が分かった。

イ 学習ボードの活用（アドバイスボード）について

動きのコツをはり付けたことで、その付せんの内容をお互いに試しながら、納得のいく理解ができたと考えられる。また、「自分たちで考えた動きのコツ」という意識が強く、「みんなで教え合いながら試してみよう。」、「みんなでやればできるんじゃない。」など自分で工夫しながら学習することができるようになってきたことが、表の形成的授業評価の推移における「学び方」や「協力」の結果からも分かる。

資料 アドviceボード

表 形成的授業評価の推移



## 【授業研究2（小学校）】

小学校第5学年「ダンス・マイワールド」における論理的思考力をはぐくむ  
ことを踏まえた学習指導

- 表現の仕方を身に付け，自分のイメージを広げながら表現を再構成していく  
活動を通して -

1 領域及び内容 「F 表現運動 ア 表現」

2 単元名 「ダンス・マイワールド」

3 単元設定の理由

本単元の表現運動は，自己の心身を解き放し，リズムやイメージの世界に没入して，なりきって踊ることが楽しい運動であり，互いの違いやよさを生かし合って，仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。さらに ア表現では，身近な生活などから題材を選んで表したいイメージや思いを表現することを楽しみながら，自由に動きを工夫して楽しむ創造的な学習であるととらえられている。

5年生の児童の一般的な特徴として，中学年のころに比べ，体格の変化が顕著である。それに伴って，心が大きく変化し，ものの感じ方や好みが多様化し，男女差や個人差も現れてくる。また，自分の思いや考えを伝えられる時期にもなっており，今回の学習指導要領の体系的なとらえ方では，多くの運動経験をさせる時期に当てはまる。

そこで，児童が表したいイメージや思いをもち，自由に表現するための表現の仕方を身に付け，その動きを基に，工夫しながら表現を創り上げていく学習過程を工夫することで，論理的思考力をはぐくめるとともに「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」が図られると考え，本主題を設定した。

4 主題に迫る具体の手立て

(1) 表現の仕方を身に付け，自分のイメージを広げるための工夫

ア 表現の仕方の習得と活用

表現の仕方について「四つのくずし」を習得し，その動きを基に自分の思いやイメージを広げ，工夫しながら表現を創り上げていく。

イ 授業展開の工夫

1時間の授業展開を「踊る活動」，「創る活動」，「見る活動」で構成する。

ウ 課題提示の工夫

自分のイメージがもちやすく，工夫した表現ができるようにするために題材を日常生活から取り上げる。

(2) 表現を再構成していく活動

ア ミニ交流会の設定

毎時間の後半に設定する。

イ 交流会の設定

単元の最後に交流会を設定する。

5 授業の実践

(1) 目標

めあてをもち、友達と協力し合い、だれとでも気持ちを合わせて踊ろうとする。  
(関心・意欲・態度)

題材から表したいイメージを広げ、その感じにふさわしい表現の仕方を工夫できるようにする。  
(思考・判断)

題材の表したい感じを強調するように、動きに変化や起伏をつけて表現することができるようにする。  
(技能)

(2) 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
学具 習体 活の 動評 に備 お規 け準 る	めあてをもち、 <u>進んで</u> 表現運動に取り組もうとする。 友達と気持ちを合わせて <u>意欲的</u> に踊ろうとする。 友達の動きや活動のよいところを見付け、 <u>進んで</u> 認め合っている。	表したい感じを表現するための <u>変化と起伏のつけ方</u> や、 <u>ひと流れの動きを工夫</u> して考えている。 友達と一緒に動きを <u>教え合い</u> 、 <u>アドバイスし合い</u> 、 <u>よりよい動きを</u> 考えている。	題材の表したい感じを強調するように、 <u>動きに変化と起伏をつけ</u> 、 <u>体全体で動くことができる</u> 。 友達と一緒に、 <u>群を生かした動きを工夫して</u> 表現することができる。

は十分満足できる状況

(3) 指導と評価計画(8時間扱い)(男子19人,女子13人,計32人)

	学習のねらい・活動	評価計画		
		関	思	技
はじめ × 1	オリエンテーション 運動の特性や学習のねらい,計画,内容を理解する。 1 運動の特性やねらいを知る。 2 学習の仕方について確認する。 ・学習カードの使い方 ・イメージバスケットの書き方 3 学習の約束事を確認する。 4 体ほぐしをする。 5 みんなで踊る。 6 学習のまとめをする。	}		
なか 1 × 4	ねらい 多様な題材から,関心のある出来事を取り上げ,表したいイメージを強調しながら踊る。  1 ウォーミングアップリズムダンスをする。 2 本時の学習を確認する。 3 共通に身に付けさせたい動きを体験させる。  【やってみよう(習得)】 日常生活や社会の中から特徴的な動きを取り上げ,表したいイメージを踊る。  題材 (1)スポーツ感動場面 (2)動きマン			

	<p>(3)はりきりママ (4)学校生活ダイアリー</p> <p>4 動きのポイントの確認をする。 5 共通に身に付けさせたい動きを再構成する。</p> <p>【広げよう(活用)】 グループになり、好きな題材を選んで、表したい感じが生きるようにメリハリのあるひと流れの動きを工夫して表現する。</p> <p>6 見せ合いをし、交流をする。 7 学習のまとめをする。</p>				
なか 2 x 2	<p>ねらい 表したい題材を選んで「はじめ - なか - おわり」の簡単なひとまとまりの動きにして踊る。</p> <p>1 ウォーミングアップリズムダンスをする。 2 表したい題材ごとにグループになり、グループごとのめあてを確認する。 3 表したい題材ごとになったグループで動きづくりをする。 ・ 感じを強める工夫をしたり、「はじめ - なか - おわり」を意識しながら踊る。 4 見せ合いをし、互いにアドバイスをする。 5 グループに戻り、感じを確かめながら、組み立てて直す。 6 前時の踊った感じや見せ合いを通して、アドバイスし合った動きや場面をグループで確認する。 ・ イメージを大切にしながら、仕上げていく。</p>				
ま と め 1	<p>交流会 ・ 各グループの踊りを順番に鑑賞する。 ・ 感想を発表し合う。 ・ 学習のまとめをする。</p>				

(4) 本時の学習

ア 本時のねらい

題材から表したいイメージを広げ、感じにふさわしい動きを工夫している。

(思考・判断)

題材の表したい感じを強調するように、動きに変化をつけて踊ることができる。

(技能)

イ 展開(4/8)

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
は じ め 8 分	<p>1 ウォーミングアップリズムダンスを行う。 ・ リズムにのりながら先生の動きの発信で踊る。リーダーを交代しながら踊る。 ・ 友達ともかかわって踊る。</p>	<p>・ 健康状態、表情を観察する。 ・ 始めは、教師がリーダーとなり、動きの発信をする。 ・ リズムにのって、全身で弾んで踊るようにする。 ・ 友達とかかわって踊らせる。始めは、教師が動きをリードするが、徐々に自由なダンスに変えていく。 ・ 動きの中に「四つのくずし」を意識させる。</p>	
な か 37 分	<p>2 本時の学習を知る。</p> <p>ねらい 日常生活や社会の中から特徴的な動きを取り上げ、表したいイメージを踊る。</p> <p>3 イメージを基に、いろいろな家事をするお</p>	<p>・ イメージバスケットから、お母さんがこなす家事のさまざまな場面を想像させる。</p>	

母さんのイメージを膨らませる。

イメージバスケットや友達の発表を参考にしてイメージを膨らませる。  
・ひと昔前の家事を想像させて、家事の忙しさをつかませる。

やってみよう（習得）

家事の特徴的な動きを取り上げ、表したいイメージを強調して表現する。

4 教師と一緒に踊る。  
動きの例

- ・掃除  
ぞうきの汚れを落とす - ぎゅっとしぼる - 全身を使って窓をふく - いろんな方向へほうきで掃く（スローモーションを効果的に入れる）
- ・買い物かごを持っておすまし歩き - バーゲン会場で奪い合い - バイクに乗って帰る（動きにメリハリをつける）
- ・クッキングフライパン返して、フライパンをいろいろな方向に動かし、ポーズの速さを工夫しながら表現する。

- ・始めは教師の言葉かけをヒントにし、イメージを膨らませながら一緒に踊る。
- ・動きと仕事の対象となっている物に視点を置いて踊ってみると動きに広がりが出ること伝える。
- ・「四つのくずし」を意識するように話す。
- ・全身を使って動いている児童を賞賛し、動きを紹介し、模倣させながらよい動きを広げさせる。
- ・イメージを膨らませ、全身を使って大げさに表現させる。
- ・教師の言葉かけとともに動く中で、ひと流れの動きを経験させる。
- ・手の先や足の動きを意識させ、ダイナミックな動きを体験させる。
- ・素早く、スローモーション、ストップ、コマ送りなど時間軸に変化をつけて踊らせる。動きながら言葉かけをし、動きに刺激を与える。

5 動きのポイントを振り返る。

- ・どんな動きがあったか、振り返りをさせる。
- ・押さえない動きを踊ってみる。
- ・動きや工夫のポイントを押さえる。

広げよう（活用）

2人組やグループになり、「やってみよう」で共通に体験した動きを使って、さらに動きを繰り返したり、組み合わせたりしてイメージにあった動きを表現する

6 グループになり、表したいイメージを強調して表現する。

- ・3～4人組になり、表現する順番を決める。
- ・一人一人表したいイメージを膨らませ順番に踊る。  
他のメンバーは、リーダーになった友達の動きをまねたり、かけ合ったり、工夫して踊る。

- ・いろいろな家事の場面を取り上げていくように指示する。
- ・一番強調させたい場面にこだわって動きを工夫することを約束させる。
- ・いくつかの動きのつなぎ方について考えさせひと流れの動きになることに気付かせる。それぞれの動きを実況していくことで、動き方やイメージに刺激を与え、動きを活性化していく。
- ・友達ならではの対立の動き、人間関係のくずしも取り入れるように助言する。
- ・イメージを膨らませ、全身を使って大げさに表現させる。
- ・動きに「四つのくずし」を意識させる。
- ・見るときの視点を確認する。

7 交流会をする。

- ・二つのグループになり、A Bの順に見合う。（よい動きのグループを取り上げて見せることもある。）

- ・よい動きを見付け合い、互いにコメントし合う。また、よい動きをまねさせる。
- ・どんな動きがよいか、確認させる。

思考・判断

- ・題材から表したいイメージを広げ、感じにふさわしい動きを工夫している。（学習時の観察・学習カードの記述）

運動の技能

- ・題材の表したい感じを強調するように、動きに変化をつけて踊ることができる（学習時の観察）

まとめ 5分	8 学習のまとめをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返りをさせ、意欲的に動いていた児童を賞賛する。</li> <li>・今日のがんばりを認め、次時の活動への意欲をもたせる。</li> </ul>	
	9 学習カードの記入をする。		
	10 あいさつをする。		

は努力を要する状況にある児童への手立て

## 6 授業の結果と考察

### (1) 表現の仕方を身に付け、自分のイメージを広げるための工夫

#### ア 表現の仕方の習得と活用について

児童は、自分の思いやイメージを広げるために、表1に示した「四つのくずし」の表現の仕方を身に付け、その動きを基に表現することができるようになってきた。活動テーマ「はりきりママ」の授業では、フライパンで目玉焼きを作る場面に「体のくずし」と「リズムのくずし」を取り入れ、ママが朝の忙しい時間にやけどしそうになったり、目玉焼きを失敗してしまったりしながら、やっとの思いで完成させ、急いで家族に食べさせる場面を表現できた。資料単元後のアンケート問4「新しい動きを創っていくときに、どんなことに気を付けましたか。」では、「リズムをくずすこと」、「空間をくずして踊ること」、「メリハリをつけること」など「四つのくずし」を身に付け、活用して表現を創り上げていることが分かる。また、問1「四つのくずしについて意識して踊ることができましたか。」から、ほとんどの児童が「四つのくずし」を基に表現し、活動テーマによって、どのくずしを使ったらよいか選んでいることが分かる。このことから「四つのくずし」を習得し活用することで、自分のイメージを広げることができたことが分かる。

表1 四つのくずし

四つのくずし；くずす（変化する）ことでリズムもノリも動きも長く続けられる。			
<p><b>空間（場）のくずし</b> 方向や場の使い方の変化 心身の解放は、空間のくずしから！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人のいない方へ、自分の居場所をつくらない</li> <li>・集まらずに、広いスペースで自由に</li> <li>・体操隊形はNG.</li> </ul>		<p><b>体のくずし</b> ねじる、回る、跳ぶ 体の状態をいろいろ考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の状態や部分の変化</li> <li>・非日常の動き</li> <li>・踊る木立（棒状態）からの脱却</li> </ul>	
<p><b>リズムのくずし</b> 素早く、ゆっくり、急に止まる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムや速さの変化がメリハリのある動きへ</li> <li>・素早い動きを入れると動きが生き返る。</li> <li>・メリハリがダンスの命！</li> </ul>	<p><b>心のくずし 変化を起 こそう</b></p>	<p><b>人間関係のくずし</b> 離れる、くっつく、反対になる、くぐり抜ける、まねし合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ合いをする。</li> <li>・一人ではできない動きに挑戦！</li> <li>・動きが立体になる。</li> </ul>	

#### イ 授業展開の工夫について

表2「1時間の活動の流れ」は、「踊る活動」、「創る活動」、「見る活動」を具体的に表したものである。

表2 1時間の活動の流れ

<p><b>ウォーミングアップリズムダンスをする。</b></p> <p>心と体を解放させ、学習意欲を喚起させる。</p>
<p><b>イメージをつくる(膨らませる)</b></p> <p>前時終了後に書かせたイメージバスケットを中心に本時の課題である題材について、イメージをつかませる。(オノマトペ表現も含む)</p>
<p><b>「やってみよう」(習得)</b></p> <p>教師の例示(実際に踊る)を体験させる。身に付けさせたい動きを教師が例示することにより、動き方や動きのポイントをつかませる。</p> <p>「四つのくずし」を意図的に取り入れる。</p>
<p><b>動きのポイントを確認する。</b></p> <p>「やってみよう」で教師と一緒に動き、気付いたことを自由に発表させる。また、この中で、表現が難しい点については、教師から「四つのくずし」について説明し、課題を明確にさせる。</p>
<p><b>「広げよう」(活用)</b></p> <p>グループごとに身に付いた動きや動き方を工夫して即興での表現を通して、楽しみながら動きの再構成をさせる。</p>
<p><b>ミニ交流会</b></p> <p>本時で感じたことをお互いに表現し合いながら、身に付いた動きや動き方の定着を図る。</p>

( 印は活動，教師の指導，留意点)

授業はじめの「踊る活動」では、リズムダンスを取り入れた。このことにより心と体が解放され、「今日は何のテーマで踊るの。」、「今日はだれとグループになるの。」など意欲を喚起することにつながった。「創る活動」では、テーマを与え、それについて「四つのくずし」のよさを確認してから、グループごとに自由に創らせた。グループ内では、テーマから強調したい動き、みんなで表現するところや個人で表現するところなど実際に表現しながら創り上げていく様子が見えた。「見る活動」では、本時の表現したことを他のグループと見せ合うようにし、自分たちが創った表現の強調する部分を伝えてから発表するようにした。児童たちは、自分のグループと他のグループの表現方法の違いに気付かされ、「自分たちもやってみよう。」、「のときの表現が面白い。」などの声が聞こえてきた。このことから、1時間の授業展開を「踊る活動」、「創る活動」、「見る活動」で構成したことで、表現の仕方を身に付け、自分のイメージを広げることができたと考えられる。

#### ウ 課題提示の工夫について

自分のイメージをもちやすく、工夫した表現ができるようにするために、表3「課題と教師の例示」のテーマを設定した。単元後のアンケートの結果から、テーマからイメージを浮かべられた児童が多いことが分かる。また題材の取り上げ方についても、「よかった」、「どちらかといえばよい」がほとんどであることから、題材を日常から取り上げることで、自分のイメージがもちやすくなり、工夫した表現ができるようになった。

表3 課題と教師の例示

時	テーマ	習得をさせるために意図して例示した主なもの
1	オリエンテーション	
2	スポーツ感動場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人競技 - 水泳：体をダイナミックに使う動き・場をくずして動く</li> <li>・2人組 - ボクシング：人間関係のくずし（勘がよく動ける子どもを活用した）</li> <li>・リズムのくずし</li> <li>・集団 - サッカー：場・リズム・体のくずし</li> </ul>
3		
4	働きマン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路工事：体・リズム・場</li> <li>・サラリーマン：体・リズム・場</li> <li>・うなぎ屋さん：体・リズム</li> </ul>
5	はりきりママ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除：体・リズム・場</li> <li>・買い物：体・リズム・人間関係（予め想定させる）・場</li> <li>・料理：体・リズム・場</li> </ul>
6	学校生活ダイアリー	・委員会 ・授業 ・給食
7	題材を選んで	2～5の題材から選んでグループ活動
8	交流会	

(2) 表現を再構成していく活動

ア ミニ交流会の設定について

毎時間の最後に、本時の学習で表現できた内容を見せ合う場を設定し、グループごとに発表させた。その発表を見た後に、他のグループの表現のよさや面白さを取り入れながら、もう一度即興で表現させた。この活動を通して、自分の表したいイメージをさらに広げ、楽しみながら動きの再構成ができた。

イ 交流会の設定について

単元の最後に交流会を設定し、前時（6時間目）にグループごとにテーマを決めて創った表現を発表させた。発表する際には、強調したところや、表現の難しかったところを全員に伝えてから行わせた。発表を終えたグループは、他のグループから感想をもらい、みんなで認め賞賛し合った。最後に、他のグループの表現から感じたことや、よかった動きなどを取り入れてもう一度表現させてみた。児童は、「前よりも動きが大きく表現できた。」、「強調するところが変わってきた。」など新たな気づきがでてきた。この活動を通して楽しみながら動きの再構成ができた。

資料 単元終了後のアンケート結果 （平成21年7月15日実施 第5学年1組 32人実施）

問1 四つのくずしについて意識して踊ることができましたか。

自己評価	空間のくずし	リズムのくずし	体のくずし	人間関係のくずし
できた	18	23	26	20
どちらかというときできた	11	8	4	9
どちらともいえない	2	1	2	3
どちらかというときできなかった	1	0	0	0
できなかった	0	0	0	0

問2 テーマからイメージを浮かべることができましたか。

自己評価	人数	主な理由
できた	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなイメージを浮かべることができた。</li> <li>・イメージ(想像)するのが好き。</li> <li>・イメージがたぐさくさんあったから。</li> <li>・やっている人をよく見ているから。</li> <li>・ハプニングの場面から浮かんだ。</li> </ul>
どちらかといえばできた	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマをよく考えてちょっとずつイメージしていった。</li> <li>・少しならできた。</li> <li>・自分の経験したことならできる。</li> </ul>
どちらともいえない	1	・できるときもあれば、できないときもあるから。
どちらかといえばできない	0	
できない	0	

問3 それぞれの題材について

評	1 刺エーション	2 スポーツ	3 働きマン	4 はりきり	5 学校生活	6 題材選んで	7 交流会
5	20	20	21	19	18	19	17
4	11	10	8	8	10	10	9
3	1	1	3	4	3	2	5
2	0	1	0	1	1	1	1
1	0	0	0	0	0	0	0

(評) 5 : とてもよい, 4 : どちらかといえばよい, 3 : どちらともいえない, 2 : どちらかといえばよくない, 1 : よくない

問4 新しい動きを創っていくときに、どんなことに気を付けましたか。(自由記述)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムをくずす。</li> <li>・空間をくずして踊ること。</li> <li>・自分の表現したいことをそのまま表す。</li> <li>・普段使っていない体の部分を使うように。</li> <li>・みんなの動きに合わせること。</li> <li>・動きが止まらないように。</li> <li>・あまりやりすぎない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見ている人に分かるように踊った。</li> <li>・メリハリをつけること。</li> <li>・ダイナミックであっと驚くように。</li> <li>・ハプニングを入れること。</li> <li>・とても無理そうなことはやらない。</li> <li>・動きを間違えないように。</li> <li>・もっとはじけて踊ること。</li> <li>・四つのくずしに気を付けた。</li> </ul>
--	--

問5 即興表現はどうでしたか。(自由記述)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかった。</li> <li>・いろいろな動きを体のいろんな部分を使って踊ることができた。</li> <li>・自分からできた。</li> <li>・自分で考えたことを体で表せた。</li> <li>・自分の思うがままにやるのが自分らしくてよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもよくできた。</li> <li>・リズムのくずしを意識しながらできた。</li> <li>・動きを工夫できた。</li> <li>・難しかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまくできて楽しかった。</li> <li>・自由にできた。</li> <li>・元気いっぱい踊れた。</li> </ul>
---	--	--

## 【授業研究3（中学校）】

中学校第1学年「自分の力に合った50mハードルのコースを作ろう」における論理的思考力をはぐくむことを踏まえた学習指導

- 自分の力を知り，確かめ合いながら課題解決していく場の工夫を通して -

1 領域及び内容 「C 陸上競技 (3) ハードル走」

2 単元名 「ハードル走」

3 単元設定の理由

ハードル走は，一定の間隔に置かれた一定の高さのハードルを越えながら，一定距離を走り抜き，その時間を競い合う運動である。

生徒は，中学校に入学して初めてのハードル走の授業になるが，事前の意識調査から興味・関心が低いことが分かった。その理由として「ハードルを跳び越える恐怖」，「ハードルの高さへの恐怖」，「インターバルの難しさ」，「ハードルの跳び方の知識不足」が挙げられる。そこで生徒の実態から，まず，ハードルの高さを低くし，インターバルを短くしてリズムカルにハードルを跳ばせて恐怖心を解く。次にハードル走の技術について，ポイントを具体的に示し，実際に跳ばせながら実感させる。この活動で得た「リズム」，「抜き足や振り出し足の動かし方やタイミング」，「ハードルとの距離感」，「加速のイメージ」などを自分のイメージづくりのポイントしておさえさせ，友達にアドバイスする視点をもたせる。さらに自分の走力とハードル走の技術を関連付けながら，理想の50mハードル走のコースを作る。この過程において，論理的思考力がはぐくまれるとともに「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」が図られると考え，本主題を設定した。

4 主題に迫るための手立て

(1) 思考・判断を促す課題提示

ア ハードル走の技術がイメージできる課題提示

ハードル走の技術のポイントと走るスピードとの関係に気付かせ，自分の力を知り，工夫しながら練習させるきっかけをつかませるための課題を提示する。

イ 自分の理想のコースづくり

「決まった距離をどう走るか」，「自分に合ったインターバル」をどれくらいの距離で設定すればよいかの思考・判断を促す課題を提示する。この課題に対して友達とアドバイスし合いながら練習を工夫し，理想の50mハードルコースを作ることで，論理的思考力がはぐくまれると考える。

(2) 課題解決していく場の工夫

ア 3人組（トリオ）学習

走者1人に対して，2人のアドバイザーが，観察する位置を工夫しながら，アドバイスをする。

イ 場の工夫

ハードリングの動きのポイントをその場でアドバイスできるように、アドバイスゾーンを通常のレーンの両サイドに設定する。

5 授業の実践

(1) 目標

- 陸上競技に興味・関心をもち、達成感や充実感を味わおうとする。 (関心・意欲・態度)
- 自分にあった競技方法や練習方法を選び、工夫しながら活動ができるようにする。 (思考・判断)
- リズムカルにハードルを走り越すことができるようにする。 (技能)
- 学習上のマナーや競技の特性について理解できるようにする。 (知識・理解)

(2) 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
学具 習体 活の 動評 に備 お規 け準 る	陸上競技の特性に興味・関心をもち、 <u>進んで</u> 学習に取り組もうとする。  互いに助け合い、 <u>助言</u> し合いながら自ら <u>進んで</u> 練習や競技を行おうとする。  <u>自発的に</u> 安全に留意して場の設定を行い、公正な態度で練習や競技をしようとする。	自分の能力を知り、 <u>自分に適した課題を見つけ</u> 計画的に練習を進めている。  自分の課題に応じて、 <u>進んで</u> 練習を工夫して課題解決を図っている。  助言や資料等を参考に <u>して、筋道を立てて</u> 練習をしている。	ハードルをリズムカルに走り越えることができる。  第1ハードルを決めた足で踏み切って走り越えることができる。	種目の特性や練習方法、ルールについて理解している。  競技の仕方や審判法について理解している。

は十分満足できる状況

(3) 指導と評価計画 (10時間扱い) (男子17人, 女子17人, 計34人)

時間	ねらい・学習活動	評価計画			
		関	思	技	知
はじめ 1時間	学習の方法, 形態を知り見通しをもつ。 種目を選択し, グループを編成をする。 ・男女共習 ・異質グループ 学習の約束を決める。 自分の記録を測定する。 学習計画を立てる。 (準備運動, 練習方法, 記録測定など)	}	}	}	}
なか 2 5時間	ねらい 今もっている力で競技の仕方を工夫し競争したり, 記録に挑戦して楽しむ。  (走り幅跳び) : (走り高跳び) ・助走練習 : ・踏み切り合わせ練習 : 踏み切りと空中姿勢 (腕の使い方) ・踏み切りから跳躍へ (腕の使い方) : ・効果的な着地 : 着地練習  2時間ずつで男女でローテーション 記録測定の係を分担して行う。 (合図・計測・アドバイザーなど)				
なか 6	準備 準備運動 集合・整列・あいさつ 本時の課題と授業の確認 (ハードル走) ・ハードルを倒してリズム走 (インターバルを3歩で) ・自分のコースを決定する。	}	}	}	}

7 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハードリングの練習（ストレッチ・歩いて足上げ・足振り）</li> <li>・スタートから第1ハードルまで。</li> </ul> 記録測定 係を分担して行う。（合図・計測・アドバイザーなど） 後片付け 整理運動 本時の成果の確認 あいさつ・解散				
な か 8 9 時間	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ねらい            もっている力を高めるための練習を行い、自分の設定した記録に挑戦して楽しむ。         </div> 準備 準備運動 集合・整列・あいさつ 本時の課題と授業の確認 （ハードル走） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハードルを倒してリズム走（インターバルを3歩で）</li> <li>・ハードリングの練習（ストレッチ・歩いて足上げ・足振り）</li> <li>・スタートから第1ハードルまで</li> <li>・自分の力に合ったコースを作る（インターバルの長さを決める）</li> </ul> 記録測定 係を分担して行う。（合図・計測・アドバイザーなど） 後片付け 整理運動 本時の成果の確認 あいさつ・解散				
ま と め 10 時間	準備 準備運動 集合・整列・あいさつ 本時の課題と授業の確認 （ハードル走） 記録会 グループごとの大会 係を分担して行う。（合図・計測・アドバイザーなど） 後片付け 整理運動 単元のまとめ 記録や反省をカードに記入。				

(4) 本時の学習

ア 本時のねらい

お互いにアドバイスをし合いながら、自ら進んで練習に取り組もうとする。  
 練習を工夫しながら、自分の力にあったコースを作ることができる。

（関心・意欲・態度）  
 （思考・判断）

イ 展開（8/10）

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価の観点・方法																																								
は じ め 10 分	1 準備 2 準備運動 3 集合・整列・あいさつ 4 本時の課題と流れの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担を確認させ、安全に留意しながらハードルの設営、用具の準備ができるようにする。</li> <li>・前時の学習を思い出し、自分の課題を振り返るようにする。</li> </ul>																																									
な か 35 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             自分の力にあった50mハードルのオリジナルコースをつくろう。           </div> 5 ハードルを倒してリズム走（インターバルを3歩で） <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>E</td> <td>D</td> <td>C</td> <td>B</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>11m</td> <td>11m</td> <td>11m</td> <td>11m</td> <td>11m</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6m</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6.5m</td> <td>6m</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>7m</td> <td>6.5m</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>8m</td> <td>7.5m</td> <td>7m</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>8m</td> <td>7.5m</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table>	E	D	C	B	A	11m	11m	11m	11m	11m					6m				6.5m	6m			7m	6.5m	・	8m	7.5m	7m	・	・	8m	7.5m	・	・	・	・	・	・	・	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめはA～Eコースで行う。Aコースでも無理な生徒がいた場合には、特別コースを作る。</li> <li>・第1ハードルまでを11mとし、その後に4台を等間隔で準備する。</li> <li>・3歩のリズムがつかめない生徒には、パートナーに「123」と声を掛けるよう指示し、リズムからイメージをつかませる。</li> <li>・トリオで、走る人と見てアドバイスする係で協力して取り組むように声掛けをしていく。</li> <li>・3歩で行けない生徒にどのようにアドバイスするとよいか助言する。（スピード、コース変更など）</li> </ul>	思考・判断 自分の力にあったコースを作るために、進んで練習を工夫している。 （学習時の観察・学習カード）
E	D	C	B	A																																							
11m	11m	11m	11m	11m																																							
				6m																																							
			6.5m	6m																																							
		7m	6.5m	・																																							
8m	7.5m	7m	・	・																																							
8m	7.5m	・	・	・																																							
・	・	・	・	・																																							

	<p>6 ハードリングの練習 ・ストレッチ ・歩いて足上げ・足振り ・スタートから第2ハードルまで</p> <p>7 50mハードルで、自分のコースを作る。 (インターバルの長さを決める) インターバルを自分なりに工夫してみて、自分にとっての理想のコースを作る。 ・Bコースで、3・4台目のインターバルは6m ・Dコースで、5台目だけインターバルは7mなど</p> <p>8 記録測定係を分担して行う。 (合図・計測・アドバイザーなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り上げ足のひざを伸ばし、前にけり出すように助言する。</li> <li>・まずA～Eコースで行い、このままでよいかこのコースに自分のオリジナルのインターバルを作るのかを判断させる。</li> <li>・高さに関しても自分に合った高さとするが、はじめは高さをそろえておく。恐怖感が強い生徒のために、ミニハードルを用意しておく。</li> <li>・なぜ自分はそのコースが走りやすいのか、自分の走りを分析する。またはトリオからアドバイスしてもらおう。</li> <li>・トリオで、走者・測定・合図(アドバイス)の役割分担をして協力して計測できるようにする。</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>お互いにアドバイスをし合いながら、自ら進んで取り組もうとする。 (学習時の観察)</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>9 後片付け 10 本時の振り返り 次時の内容の確認 11 整列、あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価、相互評価を行い、本時の達成状況を確認させ、次時の課題が明確にもてるようにする。</li> <li>・次時の内容を確認し、学習の見通しがもてるようにする。</li> </ul>	

## 6 授業の結果と考察

### (1) 思考・判断を促す課題提示

#### ア ハードル走の技術がイメージできる課題提示について

一般的なハードル走の流れのポイントである「ハードルは、遠くで踏み切り、低く走り越えて速く着地する。」の逆である、「ハードルをなるべく近くで踏み切って、高く跳び越えながら遠くに着地する。」という流れで跳び越えさせた。また、全力走とゆっくりした走りで跳び越えさせて違いを体感させた。生徒は「近くで踏み切ると振り上げ脚がまっすぐにいかない。」、「高く跳ぶと楽だけど跳んでる時間が長いし遅くなっちゃうよ。」、「高く跳ぶと近くに着地なんてできない。」また、走るスピードを変えると「全力で走って跳ぶと跳べそうだけど脚が合わない。」、「ゆっくり走るとハードルが越えられない。」などの反応があり、自分なりのハードル走で大事な技術のポイントと走るスピードとの関係に気付くことができた。

#### イ 自分の理想のコースづくりについて

今回の課題である「自分に合った50mハードル走のコースを作ろう」において、1台目までのハードルの距離を11mで設定し、それ以降の4台については、自分のハードル技術と走力を考えてコースをが作れるように課題を提示した。このことにより「決まった距離をどう走るか」、「自分に合ったインターバル」をどれくらいの距離で設定すればよいか思考・判断をする状況を作った。生徒からは、1台目までのハードルを規定したことにより、「いつものスタートと逆の脚で合わないと跳べない。」、「ちょっと脚が合わないからスピードつけなくちゃ。」、「徐々に加速して跳ぼう。」など自分なりの考えが出てきた。また、2台目以降からは自由に設定できることから、「僕のスピー

ドだと最後までもたないから、インターバルをつめて作ろう。」、「徐々に加速していきたいから少しずつインターバルを伸ばしていこう。」、「走るのが苦手だから、3歩でいけるインターバルに設定しよう。」など、自分に合った50mハードルコース作りでの課題が明確になり、自分の考えをもち工夫しながら練習をしていることが分かる。

## (2) 課題解決していく場の工夫

### ア 3人組(トリオ)学習について

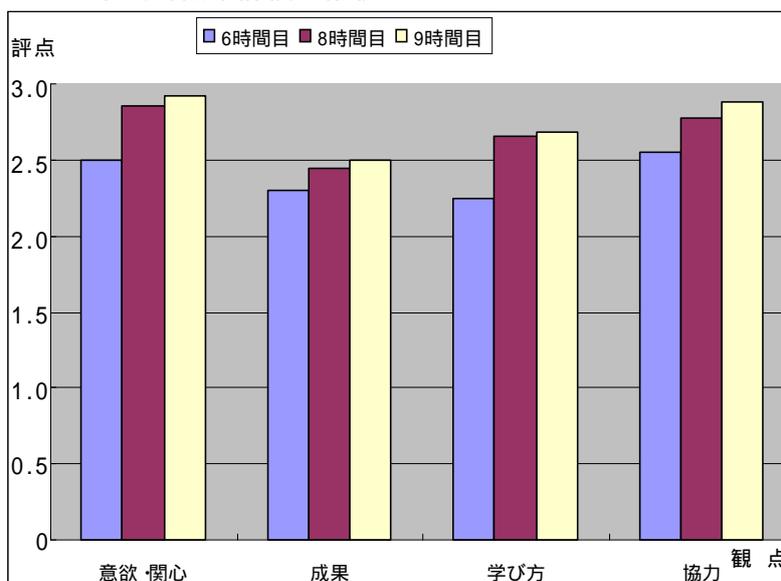
3人組は、走者、計時者、アドバイザー役割を分担し、交代しながら活動させた。また、最初は、技術のポイントがアドバイスしやすくするために同程度の技術をもつ生徒で編成し、後半からは、たくさんの生徒と交流し新しい視点でアドバイスし合えるようにするために、トリオのメンバーは固定しなかった。同程度の技術をもつ生徒で編成したことで意欲の低かった生徒も積極的に取り組み、教え合う観点(技のポイントや声かけのタイミング・場所)などが分かってくると、「最初のスピードがもっと速ければ、最後まで同じ間隔でいけそうぞ。」など具体的なアドバイスが徐々に増え、技術ポイントのアドバイスに自信がもてるようになった。

### イ 場の工夫について

コースの両サイドにペア学習の2人がアドバイスできるように、1m間隔の線を書き入れ、アドバイスゾーンを作った。ペア学習では、走っている生徒に対し、「もっと腕振らないとダメだよ。」、「踏み切りが近すぎるから、振り上げ足がまっすぐに出こないよ。」など、具体的なアドバイスができるようになった。このことにより、ハードルを跳んでいるイメージと実際のハードルの技術の差に気付き、課題を意識して、試しながら練習することができた。技術のポイントカードを作り、フォームに関するポイントは全体で共有させて実践したが、一人一人の技術認識の違いに対応できなくなり、アドバイスをすることができないトリオもいた。段階的にレベルに対応できる資料があるとよいと感じた。視聴覚機器(デジカメでの動画)を使い仲間のフォームを撮影し、実際に映像を見ながらなので、わかりやすく話すことができた。しかし、機器の使い方に

手間取ったり、映像を見ながら話し合うので時間がかかりすぎる課題も出てきた。右表の形成的授業評価の推移から、仲間と協力し合っ楽しく学習できた。技術向上へ向けての成果という点では多少ポイントは上がったが、まだまだである。1年生では学習の仕方を覚えるという点では成果があったので、引き続き実践を進めていきたい。

表 形成的授業評価の推移



## 【授業研究4（中学校）】

中学校第2学年「個人の技能を高め，チームプレイに生かそう」における論理的思考力をはぐくむことを踏まえた学習指導

- 友達からのアドバイスを基に，個人的技能を高め合い，作戦を考える活動を通して -

1 領域及び内容 「E 球技 ア ゴール型 バスケットボール」

2 単元名 「バスケットボール」

3 単元設定の理由

生徒にとってバスケットボールは，楽しい反面，難しいと感じることが多い単元である。本校では第1学年で履修していない単元のため，個人的技能の基礎が定着しておらず，チームとしての集団的技能の高まりを実感するまでには至っていない。そこで本研究では第2学年を対象に，個人的技能の習得を目指しながら集団的技能の向上との関連を図った。チーム内の構成メンバーが相互に技術的な課題や有効な練習方法を選択して指摘するなど，個々に身に付けている知識や技能をチーム内で共有し，それらを生かしながらゲームができることを目指した。

生徒は個人的技能の練習，対人的な活動の過程において意識的に設定した声の掛け合い，話し合いなどのコミュニケーション活動を通して，試合で勝つためにはチームや個人として何が必要なのかを，自己評価や仲間からのアドバイスを基にして考える。論理的思考力をはぐくみながら自己に適したかわり方を見付け，作戦を考え実践するというバスケットボールの特性に触れられるようにしたいと考えた。

4 主題に迫る具体の手立て

(1) 思考・判断を促す課題提示

今もっている個人的技能（パス・ドリブル・シュート）がゲームの場面で生かせるようにするには，ボール操作のコツやオフェンス・ディフェンスの時の状況の判断などについてイメージをもつことが大切である。そこで教師が「自分がゲーム中に『ボールを持っている時，持っていない時』，『ボールが止まった時（オフェンスの時），止める時（ディフェンスの時）』にどうするか。」を中心課題として提示する。これによりゲームの様相をイメージした練習ができ，ゲームを通して「できること」，「できないこと」の自分の力に気付き課題をつかむことができると考えた。さらに活動場面に応じて表1「思考・判断を促す発問」を取り入れることにより，友達からの技能のアドバイスやチームプレイの約束など，話し合う目的が具体的になり，自分の考えを筋道を立てて伝えることになり論理的思考力をはぐくむことにもつながると考える。

表 1 思考・判断を促す発問

<p>バスケットは、「パス」、「ドリブル」、「シュート」がある。自分では何ができそうか。どうやれば上手に見えるか考えてみよう。(技能のイメージと課題への気付き)</p> <p>難しい技能は何が自分に足りないのか、上手な人の動きから何か見付けてみよう。そしてなぜ難しいのか自分で考えてみよう。(課題の明確化)</p> <p>バスケットは、3歩以上歩くと「トラベリング」になり反則になる。だからオフェンス(攻撃)の時は、どうすればよいのか考えてみよう。これが分かると、ディフェンス(守備)の仕方もイメージできるかも。(ゲームの特性の理解と作戦・戦術への気付き)</p> <p>三つの技術について実際にやってみて難しかったけど、ゲームで使うとしたら、どんな場面でその技術が使えるのか考えてみよう。(自分の今もっている力を発揮する場面の想定)</p>
---

(2) 試しながら高めていく活動の場の工夫

ア ペア学習や小集団での活動

個人的技能及び対人的技能習得において導入する。また、ペアについては、毎時間替えながら編成し、他者の意見をさらに加えて技能習得の思考・判断をする手立てとする。さらに、小集団(3~4人)のグループを編成し、ゲーム中で自分の技能が「どの場面で生かせるのか」を試しながら、課題を見付け、「個人的技能の定着不足」なのか「ゲームの中での動き」なのかを話し合う。

イ 授業中盤での話し合い

授業の中盤にチームで話し合う場を設定する。前半で学習したことを振り返り、「何ができて」、「どんなことを修正すればよいか」といった視点でチームごとに話し合う。

ウ 学習カード

自分の動きに対する自己評価と友達から記入してもらった客観的評価が記入できるものとし、記入方法は文章や図で動きが分かるように工夫する。

5 授業の実践

(1) 目標

- バスケットボールに興味・関心をもち、ルールを守って、練習やゲームに意欲的に参加しようとする。(関心・意欲・態度)
- 自己の技能にあった課題をつかみ、練習の方法やチームの力に応じた作戦を工夫することができるようにする。(思考・判断)
- バスケットボールの個人的技能や集団的技能を身に付けることができるようにする。(技能)
- バスケットボールの特性やルールについて理解できるようにする。(知識・理解)

(2) 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
学具 習体 活の 動評 に価 お規 け準 る	<p>意欲的に練習に取り組み技能の向上を目指して努力しようとする。</p> <p>楽しく練習やゲームに中心となって取り組もうとする。</p> <p>率先して仲間に助言したり、励まそうとする。</p> <p>審判の判定を受け入れようとする。</p>	<p>練習やゲームを通して自己の課題をつかみ、課題解決に向け、筋道を立て、工夫しながら取り組もうとする。</p> <p>練習やゲームの結果から、新たな課題を発見し、解決のための練習方法を選んでいく。</p> <p>適切なアドバイスをしたり、作戦を立てている。</p>	<p>正確にパス・キャッチができ、ディフェンスを避けながらパスすることができる。</p> <p>ゴールに近づきシュートができる。</p>	<p>試合方法について理解し、正しい審判法を身に付け審判ができる。</p> <p>バスケットボールの特性について、理解している。</p>

は十分満足できる状況

(3) 指導と評価計画（10時間扱い）（男子17人，女子20人，計37人）

	学習のねらい・活動	評価計画			
		関	思	技	知
はじめ × 1	<p>運動の特性や学習のねらい，計画，内容を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動の特性やねらいを知る。</li> <li>2 学習の仕方について確認する。 ・学習カード，学習資料の活用の仕方</li> <li>3 学習の約束事（ルールやマナー）を確認する。</li> <li>4 グループングをする。</li> </ol>				
なか 1 × 3	<p>ねらい 個人的技能を定着させ，ゲームに生かせるように練習を工夫する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合，本時の学習内容や学習の進め方を確認する。</li> <li>2 準備運動をする。</li> <li>3 ボールを使った個人的技能の練習をする。 ・連続ゴール下のシュート ・ドリブルストップシュート ・ドリブルシュート ・ランニングシュート ・ツーマンランニングシュートなど</li> <li>4 整理運動をする。</li> <li>5 学習を振り返る。</li> </ol>				
なか 2 × 3	<p>ねらい 個人的技能が発揮できるようにし，約束ゲームを楽しむ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合，本時の学習内容や学習の進め方を確認する。</li> <li>2 準備運動をする。</li> <li>3 ボールを使った個人的技能の練習をする。 ・ドリブルシュート ・ランニングシュート</li> <li>4 対人的な技能の練習をする。 ・ツーマンから2対1の攻防など</li> <li>5 3対3の約束ゲームをする。 ・3対3のラリーの攻防 ・中間の話合いをする。</li> <li>6 整理運動をする。</li> <li>7 学習を振り返る。</li> </ol>				
まとめ × 3	<p>単元のまとめのゲームを楽しむ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合，本時の学習内容や学習の進め方を確認する。</li> <li>2 準備運動をする。</li> <li>3 グループの課題に沿った練習をする。 ・2対1の攻防 ・ハーフコートの3対3など</li> <li>4 ゲームをする。 ・総当たりのリーグ戦を男女別で行う。</li> <li>5 整理運動をする。</li> <li>6 学習を振り返る。</li> </ol>				

(4) 本時の学習

ア 本時のねらい

自分のもっている技能を約束ゲームで試そうとしている。 (思考・判断)

ゲームの中で、正しいパスやパスキャッチ、シュートができる。 (技能)

イ 展開 (7/10)

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価の観点, 方法
はじめ 5分	1 整列, あいさつをする。 2 本時のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人的技能を練習し, 約束ゲームで発揮しよう。</div> 3 準備運動をする。	・生徒の健康観察をする。 ・本時の学習内容を説明する。	
なか 40分	4 ボールを使った個人的技能の練習をする。 ・ドリブルシュート ・ランニングシュート 5 対人的な練習をする。 ・ツーメンから2対1の攻防など 6 連続3対3の約束ゲームをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">約束ゲームのルール ・ディフェンスからオフENSEを1セットとし, 次の3人組と交代。</div>	・正確性やスピードを確認し, 体慣らしと約束ゲームへの準備として行うようにする。  2対1では, 人数の少ない方が攻めやすいことを指示する。  3対3では, タイミングをはずした動きをつくることがポイントであることを理解させる。 ・いろいろな仲間と活動できるよう助言する。 ・中間の話合いで自己評価と仲間からの評価をさせ, 自分のプレイの修正をさせる。	<運動の技能 > ・正確にパスやパスキャッチをすることができる。 (学習時の観察)  <思考・判断 > ・自分がコートの中で立っている位置と状況を理解し, 個人技能や動き方を試そうとしている。 (学習時の観察)  <運動の技能 > ・ゴールに近づきシュートができる。 (学習時の観察)
まとめ 5分	7 整理運動をする。 8 学習活動の反省と次時の課題を確認する。 9 整列, あいさつをする。	・生徒の健康観察をする。  ・学習カードに本時の振り返りをさせる。 ・自己評価と仲間からの評価をみて, 本時の反省と次時への課題を見通すことができるよう助言する。 ・本時のまとめをする。	

は努力を要する状況にある生徒への手立て

6 授業の結果と考察

(1) 思考・判断を促す課題提示

表2 発問 からは, 「技能の構造や自分の技能に対しての意識・自覚」, 発問 からは, 「技能のポイントの解釈」, 発問 からは, 「ルールの認識と戦術のポイントについての考え」, 発問 からは, 「自分の技能とチームプレイの関連」などの気付きから, 思考・判断を促す発問をしたことにより, 生徒は自分の力に気付き, 課題をつかむことができたことが分かる。また, 話し合う活動でも, 友達からの技能のアドバイスやチームプレイの約束ごとなど, 話し合う目的が具体的になり, 自分の考えを筋道を立てて伝えることができ, 論理的思考力をはぐくむことにつながったと考える。

表2 思考・判断を促す発問に対するの気付き

<p>発問</p> <p>「バスケットは、『パス』、『ドリブル』、『シュート』がある。自分では何ができそうか。どうやれば上手に見えるか考えてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリブルもやってみたいけど、どうやってボールをつけばいいかわからないからむずかしそう。</li> <li>・ランニングシュートはカッコいいけどは一番難しそう。でもフリースローならできるかも。</li> <li>・カッコよく見せるには、ボールを見ないで「ドリブル」とか「パス」ができるようになること。</li> <li>・「パス」なら両手で扱えるからできそう。</li> </ul> <p>発問</p> <p>「難しい技能は何が自分に足りないのか、上手な人の動きから何か見付けてみよう。そしてなぜ難しいのか自分で考えてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上手な「ドリブル」は、ボールが手にくっつく感じで、強くついたり、弱くついたりしている。上手な人は、ひざとか手首の動きが違う。</li> <li>・「パス」とか「ドリブル」は、動きながらできないと上手にならない。</li> <li>・「パス」は意外と簡単だけど、相手（見方）に投げるタイミングが難しい。</li> </ul> <p>発問</p> <p>「バスケットは、3歩以上歩くと『トラベリング』になり反則になる。だからオフェンス（攻撃）の時は、どうすればよいのか考えてみよう。これらが分かると、ディフェンス（守備）の仕方もイメージできるかも。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームでは、「パス」、「ドリブル」ができて、相手がいない所にボールを運べないと勝てない。</li> </ul> <p>発問</p> <p>「三つの技術について実際にやってみて難しかったけど、ゲームで使うとしたら、どんな場面でその技術が使えるのか考えてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ドリブル」は、両方の手で使えるようにするのは難しいので、利き手でまず「ドリブル」が使えるようにしたい。</li> <li>・「シュート」はカッコいいけど、上手になるには、技術のポイントがいっぱいあるので、ゲームでは上手な人にまかせて、「パス」の達人をめざす。</li> <li>・勝つためには、僕は「パス」ならできるので、声を出して、につなぐこと。ディフェンスがつく前に早くゴール近くまで持っていく作戦が大事だと思う。</li> </ul>
--

(2) 試しながら高めていく場の工夫

ア ペア学習や小集団での活動について

- (ア) ペア学習では、繰り返し学習でお互いの技能について、アドバイスし合い、自分の動きを修正しながら活動する姿が見られた。また、毎時間ペアを替えることにより、違った視点で「パス」、「ドリブル」、「シュート」の上達法に気付き、いろいろなアドバイスを試しながら工夫して練習することができた。
- (イ) 小集団（3人・4人）での活動では、自分の身に付いた知識や技能がゲーム中の「どこの場面」で生かせるのかを試したことで、自分の「個人的技能の定着不足」なのか「ゲームの中での動きが分かっていない」のか区別ができたことが活動中の話合いが

ら聞こえた。また、オールコートを使っての約束ゲームの移動から次のゲームの順番待ちのわずかな時間を活用した、「今のプレイの確認」は、相手の率直な意見がもたらえた。3対3のラリーの活動中に生徒たちから「先に空いているスペースに走ってみなよ。」、「次は自分がパスしたらすぐに走るからノーマークになったらパスしてよ。」、「ノーマークになったらすぐシュートだよ。」といったゲームを想定してのアドバイスがあった。この活動から「自分の力をプレイで発揮するには、相手（味方）の力を知って合わせること。」に気付き、その後の作戦を立てる場面で肯定的なかかわり合いがもて、自分の考えに他者の意見を加えて思考・判断することができた。

#### イ 授業中盤での話し合いについて

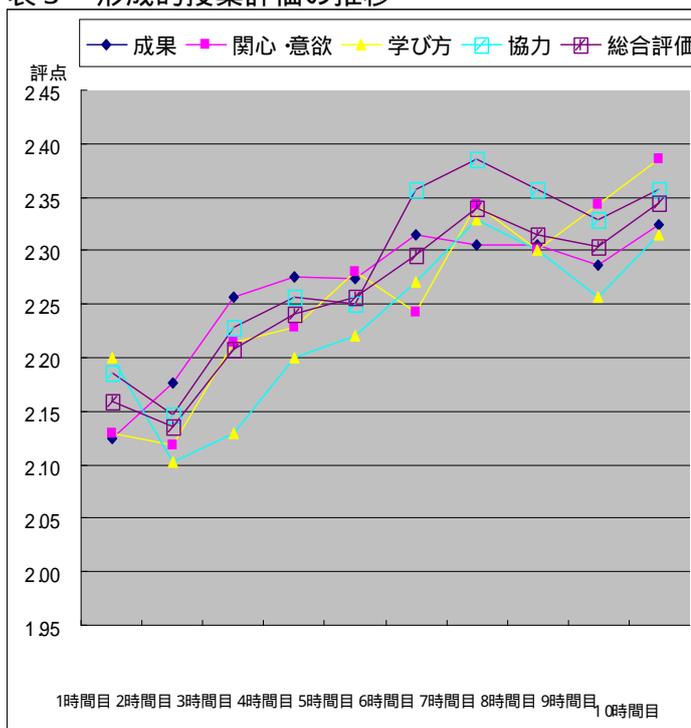
授業の中盤における話し合い活動では、小集団の練習中の課題や改善できたことを確認し、チームとしての作戦・戦術について、「ドリブルが上手だから　　さんはボールを運ぶ役がいいかも。」、「　　さんはパスが上手だから足が速い　　さんに早くパスするといいかも。」など、ゲームを想定しての話し合いに発展した。「何ができて」、「どんなことを修正すればよいか」の課題を明確につかみ、授業の前半で学習したことを振り返ることができた。この活動から、ホワイトボードで動き方を示しながら話し合えるような工夫があれば、具体的なアドバイスが生まれてくることが分かった。今後の改善点である。

#### ウ 学習カードについて

技能の習得において自分の考えに他者の意見が取り入れられ、思考・判断する手立てとなった。また、図でゲーム中の動きを示すことにより、自分がゲームで生かせるプレイを見付けやすくなった。自分の動きに対する自己評価と友達から記入してもらった客観的評価の記入ができた。しかし、教師側で「このプレイはよかった、このプレイはこうした方がよかった」など判断できる資料を示すことが足りなかったようである。

表3の形成的授業評価の推移から、活動中の話し合いが充実してきた6時間目や7時間目は協力の項目の評価が高くなってきている。8時間目や9時間目になるにつれて評価が下がった。これは、技能の習熟に差が生じはじめ、ゲーム中にも思うように活躍できない生徒が増えてきたことで、低い評価になってしまったと考えられる。今後は、個人の技能を身に付けさせ、高めていけるかが課題である。また、生徒たちでは気付かない、チームを生かそうとしたよいプレイを教師側で取り上げることで、作戦のポイントとして新たに加えられ、論理的思考力をはぐくむための活動にもつながった。

表3 形成的授業評価の推移



### 3 研究のまとめ

本研究では、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動を通して、論理的思考力をはぐくむことを踏まえた体育・保健体育科学習指導について授業研究を行った結果、ア、イについて以下のようなことが分かった。

#### ア 課題解決の方法を身に付け、試しながら技能を高めていく活動について

- (ア) 「課題を設定する」、「解決の方法を見付ける」、「試行錯誤しながら反復して課題を解決する」、「新たな課題を設定する」といった学習過程を理解させながら、活動したことで、学習の見通しがもて、課題解決の方法が身に付いた。
- (イ) 運動経験や知識がない児童にとって、模倣の運動を毎時間位置付けたことで「それぞれの運動にふさわしい動き」の基礎となる運動感覚が身に付いた。この活動で身に付けた感覚を発表し合うことで、「頭の位置や各関節の曲げ方、運動中の視線の先」など動き方には、コツがあることに気付き、自分の考えを試しながら、新たな動きを身に付けることができた。
- (ウ) 表現運動で表現の仕方が分からない児童にとって、「四つのくずし」を習得させることで、表現運動の基本となる動き方が身に付いた。さらに、その動き方を基に、自分の考えや思いを自由に試しながら、新しい動き方を身に付けることができた。

#### イ 他者とかかわる中で課題に気付き、工夫しながら解決していく活動について

- (ア) 小学校では、教師からの発問として、身に付けさせたい動きや技能について「何で」、「どうして」、「どうすれば」、「どんなことが分かりやすく説明して」などの発問を繰り返した。この言葉かけにより、運動の特性に応じた「動き方、動きの構造やコツ」について理解できた。また、話し合う活動において、課題解決に向けてのアドバイスや自分の課題解決の方法などについて、筋道を立てて説明できるようになった。
- (イ) 中学校では、思考・判断を促すために、「自分の今もっている力をどのように生かせるか」という実際の活動場面を想定させた発問は、自分の技能や知識の習熟度を再確認できた。また、運動の特性に応じた「動き方、動きの構造やコツ」に着目できたことで、課題解決の方向性をつかみ、改善のポイントに順番を付けながら試していくなど、練習方法に工夫が見られた。さらに、話し合う活動においては、ポイントを絞ってアドバイスし合えるようになり、お互いに考えた練習や作戦を基に、工夫しながら活動できるようになった。

以上のように、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動を通して、児童生徒一人一人が、課題解決の方法を身に付けたり、筋道を立てて説明したりしながら技能を向上させる学習活動が見られたことから、論理的思考力をはぐくむことにつながったと考える。

## 引用文献

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」平成20年1月

岩田 靖「体育科教育学入門」（大修館書店）平成14年4月

### 関係者一覧

#### 1 研究協力員

常総市立岡田小学校	教諭	木田 峰子
つくば市立作岡小学校	教諭	小林 恵
日立市立駒王中学校	教諭	木村 剛
稲敷市立江戸崎中学校	教諭	三橋 伸孝

#### 2 茨城県教育研修センター

所長	中村 一夫
教科教育課 課長	小沼 光一
同 指導主事	君山 弘
同 指導主事	高田 利信